

分掌	評価項目	具体的目標(小目標)	具体的方策	評価指標	年度末成果と課題(評価結果の分析)	自己評価	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第一学年	学習指導について	基礎学力の定着に向け、学習習慣を身に付けさせ、積み残しのない学習を心掛ける	・個に応じた具体的な目標・目的をもたせ、達成感を感じさせる ・各教科の課題、長期休業中の提出物を未提出のままにすることなく、期限を守って提出させる ・朝の読書タイムを利用し読書の習慣を確立す ・本人はもとより、家庭と連携を取り合い、状況によっては保護者召喚や学年主任指導を行う ・担任、クラブ顧問が協力し、体験することから始めさせ、加入率を上げる	・定期テスト前にアンケートを実施して数値化した目標を、終了後、結果と照らせ合わせ、生徒自身に進捗を自覚させる ・提出物一覧表を本人と共有し、自覚を促す ・各学期の終わりに感想文の提出を課す	・1学期には基本的な学習習慣が身に付いておらず、複数の欠点保有者も見られたが、以降、考査前には担任を中心とした補習指導の成果もあり、進級への見通しがもてる状況まで力を付けることができた	B	・今年度同様、生徒のつまづきを見逃さぬよう、担任を中心に学年で情報を共有し、必要に応じて教科担当や学年での連携した指導を継続していく	○1学期の在宅教育期間の後、小・中学校では不登校になった例もあると聞いている。この点について、どのように対応したか →通常登校開始後、県教育委員会作成のアンケートを実施して生徒の抱える不安を把握した。対応を要する生徒に対しては、担任・学年主任が面談を実施し、必要に応じてスクールカウンセラーに繋げた。1学期当初に登校できなかったことにより、不登校に陥った生徒はいなかった
	生活指導について	遅刻欠席をしない 部活動の入部を促す	・本人はもとより、家庭と連携を取り合い、状況によっては保護者召喚や学年主任指導を行う ・担任、クラブ顧問が協力し、体験することから始めさせ、加入率を上げる	・年間欠席総数10回、遅刻総数20回を超える生徒をなくす ・学年の50%の生徒のクラブ活動加入をめざす	・特定の生徒以外は遅刻・欠席は少なく、今後も家庭と連携をとった指導を継続する ・部活動に関しては、引き続き勧誘の声かけを続け、入部を促す	B	・遅刻・欠席に関しては、生徒各々の家庭環境なども視野に入れながら個に応じた指導を継続していく	
	進路指導について	自己の進路を考え、逆算した行動をとる	・1年次現在での進路を考えさせ、ワークシートを用い、自己実現に向けて必要な学習や条件等を考えさせる	・学期毎に提出させ、ワークシートの完成状況を確認する	・成人してからのビジョンはもとより、高校卒業してからの人生設計のイメージがもてない生徒が多く見られた	C	・2年次には、1年後、2年後といった先の自分をイメージした教材を検討していきたい。	
第二学年	学習指導について	基礎学力の向上をめざし、身に付けたい力・必要な学力を明確にし、積極的に自主的な学習態度を育成する	・個々の能力に応じた丁寧な指導に努める ・具体的な目標・目的をもたせ、それを達成するための努力をさせる ・家庭学習習慣の定着を図るために、家庭学習課題等を課す ・朝の読書タイムを利用し、言語能力の育成を図る ・検定クラブと連携しながら、放課後講座で実力の養成を図る	・授業アンケートで「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合70%以上をめざす ・SSシートの活用やこまめな個人面談により、生徒個々の目標・目的を把握する ・各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す ・朝の読書タイムを継続的に実施する ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める	・「授業がわかりやすい」と思った生徒の割合が70%以上の教科もあったが、1教科にとどまる結果となった ・SSシートは各クラスで活用できた ・教科にも異なるが家庭学習課題を週2回以上課すことができない教科もあった ・読書タイムは継続的に実施できた ・講座については継続的に実施した	B	・「授業がわかりやすい」との質問項目が設定されていた教科は一部の教科に限られていたので、すべての教科を対象にすすめるべきであった ・SSシートに学習目標以外に生徒自身の悩みや不安を記入する生徒もいたことで、個別に面談を実施するきっかけとなり、生徒理解に繋げることができた ・教科においては単位数の違いもあったため目標回数を課すことが困難であったとも考えられた。家庭学習の定着を目指す方策を継続的に話し合う必要がある	
	生活指導について	規範意識を高め基本的生活習慣を確立させるとともに、強い意志で自己を律していこうとする生徒を育成する 自校に誇りをもつ生徒を育てる	・積極的な生徒指導を行い、問題行動が発生しないための開発的・予防的な生徒指導に努める ・道徳教育・人権教育を行い、人としての在り方生き方を大切に育てる ・生徒の自主性を育て、学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる ・チャイム着席の徹底、遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で行う ・行事・部活動の充実を図り、社会で活躍するための力を身に付ける	・いじめアンケートを各学期に1回実施する ・定期的な校内巡視を行う ・学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する ・HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する ・年間の遅刻総数10回の生徒を出さないよう指導を強化する ・修学旅行参加率100%をめざす	・「いじめアンケート」「生活アンケート」はそれぞれ1回実施した ・学年集会及び道徳HRは各学期1回以上実施した ・HRでは生徒の自主的な活動ができた場面もあった。数少ない学校行事では、一部の生徒で自主的な活動も見られた ・遅刻生徒については遅刻当日放課後に指導をおこなって減少に努めたが、最終的に遅刻総数10回以上の生徒は10名程度いた ・修学旅行参加率はおよそ85%であった	B	・「いじめアンケート」「生活アンケート」の実施によって生徒の実態をつかむことができ、初期対応できた。今後も積極的に活用したい ・様々な学校行事が余儀なく中止となる状況下で、一部の生徒(芸術選択者や文化部)の参加に限定されたものの、規模を縮小する等の形態を変えた文化部発表会を実施することができた。今後もより工夫を凝らした学校行事の実施に努めると同時に、自主的に活動できる場を創出する必要がある	
	進路指導について	自分自身を客観的に見つけ、自己の進路と向き合い、個々の進路目標に対して努力させる	・進路ノートの活用、キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の将来設計を抱かせていく ・各種検定試験、資格試験チャレンジ、オープンキャンパス参加等を働きかける ・進路指導部や教務部と連携し、基礎学力の向上はもとより、実力と意欲の養成を図る	・SSシートや進路のしおりを活用し、個々の生徒の状況を把握するとともに、個人面談を通してこまめな進路指導を行う ・自主的なオープンキャンパスへの参加や、英検、漢検等資格検定を1つ以上持つ生徒の割合50%以上をめざす ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める	・SSシートや進路の冊子、さらには自己分析等を目標とした総合学習により、こまめな進路指導をおこなった ・オープンキャンパスへの自主的参加があった一方で、新型コロナウイルス感染を心配し参加を見合わせた生徒も数多くいた ・分野別ガイダンス等では個々に興味・関心がある進路先の説明会にも積極的に参加することができた ・漢検は全員受検したが資格取得生徒は50%に満たない状況であった ・実力養成講座は継続的に実施したが、参加率は増加できなかった	B	・進路指導担当教員主導によって、2学年の総合学習の時間を有効に活用できた。特に「自己の適性把握・自己の分析」を目標とした内容で実施し、最終学年においても進路決定に大いに活用すべきと考える ・一部の生徒ではあるが、模擬試験を受験することで将来の進路選択や職業選択にたいへん役立つものとなった。進路実現のためにも、3年次においてはスタートの1学期から積極的に促す必要があると考える	
第三学年	学習指導について	基礎学力の向上をめざし、身に付けたい力・必要な学力を明確にし、積極的に自主的な学習態度を育成する	・個々の能力に応じた丁寧な指導に努める ・具体的な目標・目的をもたせ、それを達成するための努力をさせる ・家庭学習習慣の定着を図るために、家庭学習課題等を課す ・朝の読書タイムを利用し、言語能力の育成を図る ・検定クラブと連携しながら、放課後講座で実力の養成を図る	・授業アンケートで「授業がわかりやすい」と回答した生徒の割合70%以上をめざす ・SSシートの活用やこまめな個人面談により、生徒個々の目標・目的を把握する ・各教科より週2回以上の家庭学習課題を課す ・朝の読書タイムを継続的に実施する ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める	・授業アンケートで「授業がわかりやすい」と思う、1・2の割合は80%を超えた ・SSシートの活用により、生徒の小さな変化に気づき、積極的な生徒指導や進路指導を行うことができた ・実力養成講座の生徒参加率は変わらないが、大学進学希望者を中心に中身のある講座が開講された。その成果もあり、生徒の進路目標が達成された	B	・生徒個々に具体的な目標・目的を持たせること。常にそれを達成するための意識・努力をさせること ・養成講座も含め、継続的に粘り強く指導を続けること	
	生活指導について	規範意識を高め基本的生活習慣を確立させるとともに、強い意志で自己を律していこうとする生徒を育成する 自校に誇りをもつ生徒を育てる	・積極的な生徒指導を行い、問題行動が発生しないための開発的・予防的な生徒指導に努める ・道徳教育・人権教育を行い、人としての在り方生き方を大切に育てる ・生徒の自主性を育て、学校行事や生徒会活動に積極的に参加する姿勢を育てる ・チャイム着席の徹底、遅刻や服装に関する指導を学年教員全体で行う ・行事・部活動の充実をはかり、社会で活躍するための力を身に付ける	・いじめアンケートを各学期に1回実施する ・定期的な校内巡視を行う ・学年集会や道徳HRを各学期1回以上実施する ・HRや学年集会、学校行事等で生徒が自主的に活動できる場を提供する ・遅刻総数を1学期/100回以内、2学期/150以内の数値になるように継続した指導を行う ・最高学年としての自覚を持ち、何事にも全力で取り組む姿勢を養う	・遅刻総数は1学期/44回、2学期/173回とわずかに目標数値を達成することができなかった ・年間総数は274回になり、昨年値よりは下がった	B	・今年度は分散登校・時差登校等により一概に遅刻総数の比較は難しい。ただ、昨年よりも減ったのは継続的な遅刻指導の成果と考える	
	進路指導について	自分自身を客観的に見つけ、自己の進路と向き合い、個々の進路目標を達成させるために、計画的に粘り強く努力させる	・進路ノートの活用、キャリアガイダンス、講演会、HR等を通して自己の将来設計を抱かせていく ・各種検定試験、資格試験チャレンジ、オープンキャンパス参加等を働きかける ・進路指導部や教務部と連携し、基礎学力の向上はもとより、実力と意欲の養成を図る	・SSシートや進路のしおりを活用し、個々の生徒の状況を把握するとともに、こまめな進路指導を行う ・英検、漢検等資格検定を1つ以上持つ生徒の割合が50%以上をめざす ・実力養成講座、放課後講座を継続的に実施し、生徒参加率を高める ・朝講座を実施し、大学進学希望者のサポート体制を構築する	・担任と進路指導部が連携して、個々の生徒の状況や特性を把握して進路指導をすることができた。 ・その成果もあり、ほぼ全員が希望の進路へ進むことができた。	B	・分掌と学年の連携を密にし、早い時期からの準備(面接練習・就職講座・オープンキャンパス)を開始させることが最重要である	